

品質良好、良食味水稻品種「きぬむすめ」

【背景・目的・成果】 奨励品種の「キヌヒカリ」は、近年の夏季高温の影響により白未熟粒が発生し等級低下が問題になっています。そこで、「キヌヒカリ」にかわる品種として、食味や収穫時期の分散の面から「きぬむすめ」が代替品種として有望であり、平成22年度に県奨励品種(認定品種)に指定されました。

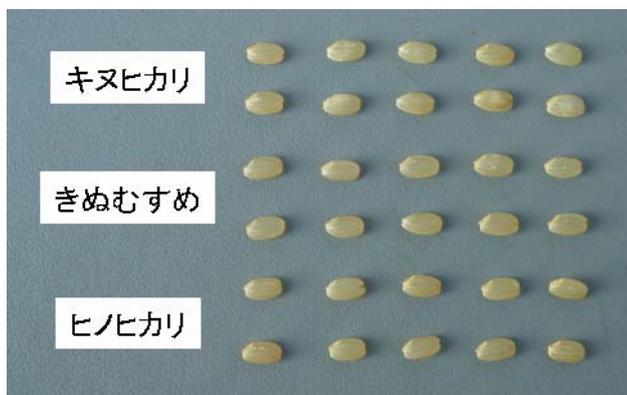
■ 交配組合せ ♀キヌヒカリ × ♂祭り晴 (九州沖縄農研)

■ 栽培特性

- ・「ヒノヒカリ」と比べて、出穂は4日、成熟は10日早い
- ・倒伏に強く、収量性は「日本晴」と同程度で「ヒノヒカリ」よりややおとる
- ・栽培適地が広い

■ 品質特性

- ・玄米は外観品質良好、検査等級1等
- ・「ヒノヒカリ」並みの良食味



「きぬむすめ」の玄米(中段2列)



「きぬむすめ」の稲株(中央)

表 「きぬむすめ」の生育・収量・品質(2003~2009)

品種名	移植期 (月.日)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	収量 (kg/10a)	ヒノヒカリ比 (%)	障害の多少		検査等級	食味総合
									倒伏程度	葉いもち		
きぬむすめ	6.14	8.25	10.06	75	17.0	370	521	95	0.0	0.5	1上~1下	-0.08
ヒノヒカリ	6.13	8.29	10.16	81	18.3	398	550	100	0.2	0.4	1上~2上	0.00

注)障害の多少は0(無)~5(甚)を、検査等級は兵庫農政事務所地域第四課調べ。

食味はヒノヒカリを基準とした官能調査の総合評価で、-2(まずい)~2(うまい)を示す。

【技術の活用】

- ・2010年度は県南部(北淡路地区を含む)地域の重点地区で80%程度を作付けし、順次地域・面積を拡大します。
- ・キヌヒカリに作付けが集中している地域では、共同乾燥施設の稼働期間の分散化が図られます。
- ・うるち品種全体の1等米比率が向上します(現在60.5%、目標は80%)。